

ニュージーランド海事労働組合（MUNZ）全国大会に参加して

橋崎 正伸

この度、2024年11月10日（日）から17日（日）までの8日間、ニュージーランド海事労働組合（MUNZ）全国大会に参加してきました。10日に成田空港を14時30分に出発し、約10時間半のフライトを経て、ニュージーランドとは4時間の時差があることから、オークランド国際空港へ到着したのが朝5時でした。そこから国内線に乗り換えるために、7時の便でウェリントンに向かう予定となっていました。ところが、入国審査などの手続きに時間が掛かったことや国内線ターミナルへの手段が、15分毎発の無料バスか徒歩10分以上ある移動が強いられることが分かり、バスが出発直後だったことから小雨が降る中、大きなキャリーケースを引き摺りながら必死で走って向かいましたが、予定の便の出発に間に合いませんでした。

通訳として同行いただいていた交運労協の福田さんに、便の変更手続きをしてもらい、「8時台の出発便が取れました。」と言われ一瞬ホッとしましたが、「夜の8時ですよ。」と聞かされ、長時間のフライトの疲れもあって気を失うかと思うくらい愕然としました。空港で約13時間を過ごすのは厳しいので、松永書記長と相談し、空港からバスに乗りオークランドの街まで行くことにしました。オークランド市街に到着し、街の中心部に着き町歩きをしながら、これぞ海外という町並みを堪能し、一時の観光気分を味わうことができました。

また徒歩圏内で、2016年からコンテナターミナルの自動化を実施して、安全やコストの問題などで失敗に終わったオークランド港を見ることができました。何とか時間潰しをクリアして、約1時間のフライトを経て、大会の行われる首都ウェリントンへ夜の10時にやっと到着し、MUNZのOB会長が夜遅くにも拘らず出迎えていただき、「ジェームス クック ホテル」まで送迎していただきました。

次の日朝9時から、3日間に及ぶMUNZ全国大会がホテル内において行われました。大会には、総勢100名の参加者があり、その内我々を含めた国内外からのゲスト（来賓）が50名も参加して行われました。MUNZ全国大会は、議題を提起して議論をする日本の大会とはまったく違い、ほとんどが大会参加者から活動報告や起きている問題の報告などが行われる学習会に近い集会という感じでした。

また大会の中で、役員や各国からの参加者からの報告の中で、港湾の自動化問題、インランドポート、PSC、青年層の活動、女性の労働環境など、日本でも聞き慣れた同じような問題が提起されていました。その他にも組織強化の実現

に向けた、戦略的なトップダウンの実現に向けた学習会の教材の更新や、組合員の声聞き、繋がりを深めるといった組合員向けの提起があり、すべてにおいて共感することができました。

大会最後日には、MUNZ組合員が作業に就いているフェリーが民営化されることに対する反対行動として、大会参加者をはじめ地元の友誼団体が街の中心部に集まり、そこからハンドマイクを使用した力強いシュプレヒコールを上げながら抗議集会の行われる国会議事堂前までデモ行進しました。

抗議集会も、カールMUNZ書記長を中心に思いや熱気が伝わる演説が行われました。その演説している最中に、通りがかりの消防車が会場前を通過する際に、クラクションを鳴らし応援してくれてことは印象に残りました。

MUNZ全国大会に参加して、海外ゲストに対してのおもてなしが素晴らしかったことや、OBや女性の組合員が非常にパワフルで、役員が手を抜けない環境になっており、見習わなければならないことが多くあることに気付かされました。

今回訪問したニュージーランドの物価は日本に比べて高く、かけうどん一杯16NZドル（約1,500円）、ビール一杯13NZドル（約1,200円）で驚きましたが、港湾労働者の平均年収がほぼ残業なしで80,000NZドル（約720万円）と聞きました。隣のオーストラリアの方が賃金が高いこともあって、労働力の流出があり、厳しい状況だと聞きました。

今日本は、高い原材料を輸入して、労働者の労働時間規制が掛かる中、残業をしないように時間内で今まで以上の作業量を熟し、物を作って安く売って、薄利多売の国内消費や輸出を行っている状態です。これにしわ寄せがきているのは、すべて労働者や一般国民へ負担が強いられており、現在の状況に陥っています。

日本の物価はまだ安いほうなので、今の賃金でも何とかやりくりできますが、いざ日本人が今貯めた貯金を持って海外に出ると、あっという間に底を尽きてしまいます。これが世界における日本の現状です。いかに日本が情報も含め鎖国的であり、意図的に気付かされなかったのか気付こうとしなかったのか、日本人はまったく無知で、「失われた30年」と言われる経済成長とともに、人も意図的に成長させられてこなかったのではないかと思える状態だということが分かることができました。

これは、一個人が引き起こした問題ではなく、明らかに政治や経済界の力によって、意図的に作り上げられたものであるとしか思えません。

日本人は、「平和ボケしている」とよく耳にしますが、このような世界の現状を知り、自分の立ち位置を知れば、「このままではダメだ」と誰もが思うはずで、完全に井の中の蛙状態です。

今回、MUNZ全国大会に参加させていただいたことによって、世界における

日本の立ち位置に気付きました。また、大会期間中に交流した際に、日本が抱える問題に対して「何かできることはないか。」「何かあれば駆けつけるから。」とほとんどの方が言ってくれ、本当に心強く感じました。このような海外の労働組合と情報や問題を共有・共感できる、全港湾の諸先輩方が作り上げ繋いでくれた、有意義な国際連帯を継続し発展させなければならないと決意することができました。

最後に、ニュージーランドへ観光や出張する際に、物価が高いのでカップラーメンなどを持って行こうと思う方は、入国申請書の記載漏れに注意しないと罰金400NZドル（約3万6千円）取られますので注意してくださいね。

以上